

長い人生を見通した教育 —高校卒業後の人生の生き方・在り方を考える—

「キャリア教育」という言葉が日本に初めて登場したのは、1999年（平成11年）のことでした。

鹿島台商業高校のキャリア教育は、高校3年生の進路実現（就職内定・大学等の合格）した後のキャリアについての教育に力を入れております。この点は他の高校とは大きく異なる特色です。

よく「うちの学校では、9月の1回目の就職試験で就職希望者のうち、たくさんの生徒が内定を頂いております」などといった情報が流れることがありますが、就職内定を得ることがキャリア教育・進路指導で最も大切なことではありません。



全国各地で高校卒業後、これだけ多くの早期離職をする若者がいる現状を考えると、就職したら終わりではないといえます。就職内定や大学等に合格したら夢が実現したのではなく（または終わりではなく）、その後のキャリア教育が最も大切な時間であると、強く認識しております。

その意味では、高校卒業後の人生の生き方・在り方について意識したキャリア教育を高校入学後から3年間系統的に進めております。特に力を入れておりますのが、3年生で進路実現後の教育の充実・強化です。3年生の12月以降の社会人準備セミナーや高校卒業後の追指導（進路指導の諸活動の6番目に相当）など手厚いキャリア教育を行っております。

充実したキャリア教育（進路指導）を進めていくことで、職場定着もキーワードにしてきながら、企業等の進路先との連携を強化しております。



キャリアセミナー



卒業生との懇談会



進路特別講話



社会人準備セミナー



労働法教育について



社会保険労務士講話について